

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 15 日現在

機関番号：30102

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21720265

研究課題名（和文）

中国北朝隋唐期における国家と地方社会に対する仏教信仰及び教団の政治的役割

研究課題名（英文）

Buddhism and political role of the cult for national and local society in the Northern Dynasties, Sui and Tang period China

研究代表者

高瀬 奈津子（TAKASE NATSUKO）

札幌大学・文化学部・准教授

研究者番号：00382458

研究成果の概要（和文）：

（1）本研究で行った研究項目のうち、第一は、唐後半期に大きな影響力を持った宦官の政治的動向に関する考察である。近年、西安や洛陽を中心に唐代の宦官の墓誌銘が続々と発見され、その史料が公刊され続けている。その情報を収集し、データ入力をする過程で、宦官の墓誌の文章表現について検討を加えた結果、宦官に対して用いられる独自の用語があり、その使用例を収集して比較、考察した。2010年7月に「唐代宦官墓志の修辞特点」というタイトルで発表した際には、唐代の宦官の勢力拡大に寄与した制度の一つである監軍制度を取り上げた。すなわち、当時、中国各地に置かれた藩鎮に監軍として派遣され、その情勢を皇帝に報告することにより、宦官は高級官僚の人事に関与することになった。こうした宦官独自の機関に関しては、文献資料の記載が必ずしも十分ではない。ところが、近年、中国では西安を中心に唐代の宦官の墓誌銘が多数発見されており、墓誌の本文を分析していくことが可能となりつつある。この発表では、監軍機関のトップである「監軍使」に就任した人物の墓誌を利用し、その内容表現の特徴などを検討した。つづいて、唐後半期に宦官が管理していた皇帝の私的な財庫である「内庫」を取り上げた。従来は、宦官が内庫を握ることで、中央財政の運営に関与するようになったと指摘されていたが、内庫の変遷やその役割を調べていくと、内庫を通じて、中央財政における皇帝権力の拡大を確認することができた。

（2）第二は、北朝隋唐期の山東省および山西省での、石刻史料調査で得られた情報を利用した研究である。まず、1980年代以降、山東省内では、北魏後期から隋代にかけて造られた仏教石刻史料が数多く発見された。それらを取り上げて、北朝後期の山東東部における、仏教造像の造営活動に関わった清河崔氏ら名族層の活動を分析して、北朝後期における名族層の地方社会における影響力を検討した上で、青州一帯の仏教造像の背景について考察した。北朝期では、崔氏は本籍地の地方社会に対して大きな影響力と政治力を及ぼしており、その両方の力がともに作用することによって、青州地域を中心とする山東東部での造像活動の活発化をもたらしたのではないかと考えられる。このことは、次の隋代に入って、崔氏がそれ以前のような政治的活動が見られなくなると、山東東部の仏教造像も減少することからも、裏付けられるものと思われる。次に、山西東南部の沁県で大量の仏教石刻である「南涅水石刻」がまとまって発見さ

れた。そこでは造像石を積み上げる「造像塔」が最も多いことから、西方の陝西地方や甘肅地方とのつながりが強いことが分かる。これについては、一緒に発見された「神亀 3 年 (520) 造像碑」の碑文から、涇水周辺には涼州武威から移住した人たちが多くいたことが確認できる。北朝時代、山西東南部には「山胡」「稽胡」と呼ばれた集団が分布していたが、その集団の具体的な性格の一つを示すのではないかと考えられ、今年度中にその成果を出す予定である。

(3) 第三は、北京の国家図書館で山西省内の地方志に記された、北朝隋唐期の仏教石刻関連記事の調査を行ったところ、清の順治年間に編纂された長治市の地方志に、則天武后が与えた仏舎利に関する記事を発見した。今年になって、光緒年間に編纂された地方志には、その時に仏塔が建てられ、一緒に建てられた石碑の全文が残されていることが判明した。これらの記事を分析することで、則天武后の仏教政策の性格をより明らかにすることができるだけでなく、この舎利を受け取った地方社会の動向も分析することができる。この成果を論文として作成中である。

研究成果の概要 (英文) :

(1) Among my studies at present, the first is on the political trend of the eunuch who had important influence in the latter period of Tang Dynasty. Recently, some epitaphs of the eunuch in Tang Dynasty are discovered and the historical materials are published continuously in Xi'an and Luo yang, etc. During the process of information's collection and data's input, I made researches about the expression of the eunuch's inscription. As a result, I found there were numbers of original words. So I had collected and compared the examples. In July 2010, I presented an article titled "*The Rhetorical Characteristic of The Eunuch's Epitaphs*". In the past Jianjun System, which was one of the systems that contributed to the power's expansion of the eunuch in Tang Dynasty. Actually in Tang Dynasty, Jianjun were sent to local governments and reported the situation to the emperor. In this way, Jianjun would have connection with the personnel affairs of senior officials. Though there are not enough documents on the eunuch's original organ, a lot of epitaphs of the eunuch in Tang Dynasty were discovered around Xi'an in China. Thus we are able to analyze the text of the epitaphs. In this presentation, I researched the characteristic of the epitaphs' expression by using the epitaphs of the people who later became Jianjunshi, the top of Jianjun's organ. And also I mentioned Neiku that the eunuch had been controlling the emperor's own vault. It was pointed out that the eunuch took part in financial activities of the central government through controlling Neiku. I studied change of Neiku and its role, and made sure emperor's power expansion in financial activities of the central government by controlling Neiku.

(2) The second is the study that I made use of information gained from inscription's examination in Shandong Province and Shanxi Province in the Northern Dynasties, Sui and Tang. At first, there were many Buddhistic inscriptions made from latter period of

Beiwei Dynasty to Sui Dynasty, and they were discovered after 1980s in Shandong Province. The noble family of Qinghe cui clan had relationship with Buddhistic stone statues activities in the east of Shandong Province in latter period of Northern Dynasties. I analyzed their activities and studied noble families' influence on local society in latter period of Northern Dynasties. What's more, I had done a study concerning the background of Buddhistic stone statues around Qingzhou. In period of Northern Dynasties, Cui clan had a significant influence and political power on the hometown's society. It is said that because of the influence and political power of Cui clans', the activities of making stone statues became active in the east of Shandong Province, especially in Qingzhou. In other words. the decrease of Buddhistic stone statues in the east of Shandong Province had something with Cui clan'. Secondly, there is a large number of Buddhistic stone statues "Nannieshui stone statues" were discovered in Qin county in the south-east of Shanxi Province. The most are statue's towers piled up by statue's stones. From this fact, we will understand that the relationship between Shaanxi and Gansu was close. The inscriptions on "Stone statue monument in 520" was also discovered at the same time. It is proved that there were lots of people from Wuwei emigrating to Nieshui. In the Northern Dynasties, a group called "Shanhu" "Jihu" existing in the south-east of Shanxi Province. I will do the study on the group's exact character and show the result this year.

(3)Thirdly, in the national library of Beijing, when I collected the material of Buddhistic stone statues of the Northern Dynasties, Sui Dynasty and Tang Dynasty written in local documents, I discovered in Changzhi City's local document during Emperor Shunzhi's Period of Qing Dynasty, there was an article showing that the Emperor Wu Zetian gave Buddhistic relic to somebody, In this year there was one discovery that a Buddhistic tower and a stone monument were built up, until now the whole inscription of the monument is left. By analyzing these articles, I can not only clarify a policy of Emperor Wu Zetian's on Buddhism, but also can analyze the trend of local societies after they received those Buddhistic relic. At present I am writing a paper on it.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：東洋史・仏教史・政治史・社会史

1. 研究開始当初の背景

(1) 北朝隋唐期における仏教史の研究は、当該時代が中国において仏教信仰の最も盛んだったこともあり、明治以降中国および日本の研究者によって行われてきた。しかし、特に日本では日本仏教の起源を探る目的もあり、その研究のほとんどが教義や思想を中心としたものだった。そこでは、仏教思想や教義がどのような発展を遂げてきたのかは明らかになっても、そうした仏教思想が当時の人々や社会にどのように受容されたのかという点はあまり検討されなかった。一方で、当時の仏教寺院は荘園などの財産を持ち、中国社会での経済力を担う一つの勢力であった。こうした寺院の活動を具体的に示す文書が中国の敦煌や吐魯番で発見されたことにより、これらの文書を用いた寺院経済の研究も、中国・日本の研究者を中心に、イギリス、フランスなどヨーロッパの研究者にも広がっている。その研究からは、仏教教団が広大な荘園を所有し、高利貸しなどの経済活動を行い、豪族層と同様に民衆と対立する存在として位置づけられてきた。しかしながら、近年中国各地で石窟や石碑、造像記などの石刻史料が大量に公刊され、それらを利用して研究を進めることができるようになったことにより、教団の宗教活動や地域社会の信仰受容の状況、教団と当時の中国社会との関係に着目した研究が発表されるようになってきた。報告者も、北朝隋唐期に盛んに作られた仏教石窟に着目し、北朝後期の石窟に彫られた仏像の様式、造像記を分析して、当時の仏教教団の布教活動や、造営事業を行った地域社会の状況について明らかにした。

(2) その一方で、これまでの研究で常につきまとう問題があった。それは仏教教団がもつ結束力やネットワークを作る役割が、しばしば中央政府や地方社会によって政治的な役割を持たされる点である。あたかも仏教信仰や仏教教団が、政治や社会の秩序安定を図ろうとするための媒介物として利用されているのであるが、同時に、仏教教団の側もこうした為政者や地方社会の動きに呼応するかのよう行動をとっていた。このような仏教教団や仏教信仰が持つ政治的側面が分からなければ、当時の国家や社会との関係、ひいては当時の人々が仏教信仰をどのようにとらえていたのかを知ることができない。北朝隋唐期では、人々が、石窟や石碑、造像記などの他に、生前の事績を記した墓誌銘を作るなどしてきた。そこには、個人や家族の仏教信仰の他に、当時の国家の仏教政策なども、断片的ながらも残されてきているのである。そこで、石窟や石碑、造像記、墓誌銘などの

石刻史料を収集、整理、分析することで、当時の仏教政策を考察すると共に、そこに国家、地方社会、仏教教団がどう関わるのかを明らかにできるのではないかと、というのが研究当初の背景である。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、中国北朝隋唐期における国家支配および地方社会の秩序維持に対して、仏教信仰および仏教教団がどのような役割を果たしたのかを、おもに石刻史料を通じて明らかにし、当時の為政者や地方社会の成員と、仏教教団がどのような政治的関係にあったのかを考察する。そこで、北朝隋唐期の河北・河南・山東・山西における仏教石窟や造像記、邑義碑、寺塔碑などの仏教石刻史料の形態、内容、所在などの情報を調査し、収集し、それを地域ごとに目録として整理する。これまで報告者が山西東南部の北朝隋唐期の仏教石刻を調査・考察してきたことから、山西地方を中心とする。これらの作業で得られた石刻史料の内容を検討し、仏教信仰が当時の地方社会の安定や秩序維持を図るにあたって、どのように受け入れられていたのか、どのように利用されていたのかを、おもに北朝後期から隋を中心に明らかにすることが、本研究の第一の目的である。

(2) 唐朝李氏は老子(李耳)を祖先の一人としたこと、また仏教重視政策をとった先代の隋朝と対抗するという意味からも、道教を仏教よりも優先するという政策をとった。しかしながら、当時の中国社会において圧倒的に信仰されていたのは仏教の方であった。そのため、唐朝も仏教を重視せざるを得ず、場合によっては、仏教信仰を利用することで、朝廷に対する求心力を高めようとしたこともあった。例えば、唐後半期に熱心な信仰を集めた五台山の仏教教団には、皇帝をはじめ、朝廷から多額の寄進が寄せられた結果、五台山の諸寺院や巡礼ルートの整備が進み、各地から信者が巡礼に集まり、ますます五台山信仰が盛んとなった。このように朝廷が五台山仏教教団を熱心に支援した背景には、安史の乱によって權威の低下した唐朝が、五台山信仰を利用することで、朝廷への求心力を高めようとする狙いがあったと考えられる。また、朝廷と五台山仏教教団とを結びつけるのに大きな役割を果たしたのが、仏教教団の監督をしていた宦官であった。唐後半期において、宦官は中央財政運営の一翼を担い、禁軍を率い、地方藩鎮の藩政を監督する役目も担当し、中央政府のみならず、当時の中国社会全般に大きな影響力を持っていた。さらに、仏教教

團の監督も宦官の役目であった。このように、唐後半期における宦官の影響が大きかったにもかかわらず、文献から把握できる宦官の事績がそれほど多くなかったために、宦官に関する研究は多くなかった。ところが、近年になって墓誌が数多く発見されるようになった。そこで、宦官の墓誌を収集、分析することにより、当時の仏教政策とそこに仏教教団がどのようにかかわったのかを、仏教に大きな影響力を持った宦官の側から明らかにし、そのうえで、唐朝が仏教信仰や教団を利用していかに朝廷への求心力を高めていったのかを考察しようというのが、本研究の第二の目的である。

3. 研究の方法

本研究は、まず北朝隋唐期の石刻史料を収集・整理し、研究文献の整理を行って、研究の基盤を構築することが中心となる。研究の目的(1)に関しては、北朝隋唐期の仏教石刻を収録した図録や遺跡の報告書を収集し、これらを用いた内容読解や形態、所在の確認を行う。そして、所在地別(河北・河南・山西・山東)と時期別(北魏・東魏北齊・西魏北周・隋・唐)の項目を立て、あとで目録の作成やデータベースの構築をしやすいように整理しておく。その一方、収集した史料を用いて、北朝隋唐期の華北東部の地方社会が、仏教信仰を媒介として、秩序維持をいかに図ったかという政治社会史に関する研究を進める。おもに山西と山東地域にある石刻史料に記された造営事業に関する記述から、それぞれの地域における教団の活動内容を整理・釈読し、その概要をまとめる。そして、とくに造像にかかわった人物の分析を通じて、政治社会史研究の課題を明らかにしていく。研究の目的(2)に関しても、唐代を中心に宦官墓誌の収集・整理を行う。唐代墓誌を収録した図録・論文・報告・史料紹介などを、できるだけ網羅的に収集・整理し、墓誌の作成時期、出土場所、大きさ、被葬者の簡単な経歴などの項目を立てた唐代宦官墓誌の目録を作成する。また、唐朝と仏教教団との関係、および地方社会と仏教教団との関係に関して、石刻史料だけでなく、個人の文集や前近代の地方志資料に散見する仏教政策や仏教関連移籍に関する記述から、資料の抽出と整理・釈読を行い、概要をまとめる。これらの整理・釈読の成果から、宦官を始めとする中央において仏教政策を実施する側の動向、中央の仏教政策を受け入れる側の地方社会の動向を明らかにし、政治社会史の研究手法を用いて検討する。

4. 研究成果

(1) 本研究で行った研究項目のうち、第一は、唐後半期に大きな影響力を持った宦官の政治的動向に関する考察である。近年、西安や洛陽を中心に唐代の宦官の墓誌銘が続々と発見され、その史料が公刊され続けている。その情報を収集し、データ入力をする過程で、宦官の墓誌の文章表現について検討を加えた結果、宦官に対して用いられる独自の用語があり、その使用例を収集して比較、考察した。2010年7月に「唐代宦官墓誌的修辭特点」というタイトルで発表した際には、唐代の宦官の勢力拡大に寄与した制度の一つである監軍制度を取り上げた。すなわち、当時、中国各地に置かれた藩鎮に監軍として派遣され、その情勢を皇帝に報告することにより、宦官は高級官僚の人事に関与することになった。こうした宦官独自の機関に関しては、文献資料の記載が必ずしも十分ではない。ところが、近年、中国では西安を中心に唐代の宦官の墓誌銘が多数発見されており、墓誌の本文を分析していくことが可能となりつつある。この発表では、監軍機関のトップである「監軍使」に就任した人物の墓誌を利用し、その内容表現の特徴などを検討した。つづいて、唐後半期に宦官が管理していた皇帝の私的な財庫である「内庫」を取り上げた。従来は、宦官が内庫を握ることで、中央財政の運営に関与するようになったと指摘されていたが、内庫の変遷やその役割を調べていくと、内庫を通じて、中央財政における皇帝権力の拡大を確認することができた。

(2) 第二は、北朝隋唐期の山東省および山西省での、石刻史料調査で得られた情報を利用した研究である。まず、1980年代以降、山東省内では、北魏後期から隋代にかけて造られた仏教石刻史料が数多く発見された。それらを取り上げて、北朝後期の山東東部における、仏教造像の造営活動に関わった清河崔氏ら名族層の活動を分析して、北朝後期における名族層の地方社会における影響力を検討した上で、青州一帯の仏教造像の背景について考察した。北朝期では、崔氏は本籍地の地方社会に対して大きな影響力と政治力を及ぼしており、その両方の力がともに作用することによって、青州地域を中心とする山東東部での造像活動の活発化をもたらしたのではないかと考えられる。このことは、次の隋代に入って、崔氏がそれ以前のような政治的活動が見られなくなると、山東東部の仏教造像も減少することからも、裏付けられるものと思われる。次に、山西東南部の沁県で大量の仏教石刻である「南涅水石刻」がまとまって発見された。そこでは造像石を積み上げる「造像塔」が最も多いことから、西方の陝西地方や甘肅地方とのつながりが強いことが分かる。これについては、一緒に発見された

「神亀 3 年 (520) 造像碑」の碑文から、涇水周辺には涼州武威から移住した人たちが多くいたことが確認できる。北朝時代、山西東南部には「山胡」「稽胡」と呼ばれた集団が分布していたが、その集団の具体的な性格の一つを示すのではないかと考えられ、今年度中にその成果を出す予定である。

(3) 第三は、北京の国家図書館で山西省内の地方志に記された、北朝隋唐期の仏教石刻関連記事の調査を行ったところ、清の順治年間に編纂された長治市の地方志に、則天武后が与えた仏舎利に関する記事を発見した。今年になって、光緒年間に編纂された地方志には、その時に仏塔が建てられ、一緒に建てられた石碑の全文が残されていることが判明した。これらの記事を分析することで、則天武后の仏教政策の性格をより明らかにすることができるだけでなく、この舎利を受け取った地方社会の動向も分析することができる。この成果を論文として作成中である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

- ①高瀬奈津子、2008 年日本における敦煌学の文献目録、2009 敦煌学国際聯絡委員会通讯、査読無、2010 年、pp. 215-220.
- ②高瀬奈津子、唐後半期の財庫について—延資庫を中心に—、唐代史研究、査読無、第 13 号、2010 年、pp. 101-125.
- ③高瀬奈津子、2009 年日本における敦煌学文献目録、2010 敦煌学国際聯絡委員会通讯、査読無、2010 年、pp. 295-299.
- ④氣賀澤保規、高瀬奈津子、江川式部、山西省太原地区並びに山西・西安地区仏教石刻調査報告、東アジア石刻研究、査読無、第 3 号、2011 年、pp. 78-87.
- ⑤高瀬奈津子、遣隋使の歴史的意義と外交儀礼、孔子学院 中日対照版、査読無、総第 6 期、2011 年、pp. 20-23.

[学会発表] (計 4 件)

- ①高瀬奈津子、山東東部の仏教石刻と山東貴族、第 54 回国際東方学会議、2009 年 5 月 15 日、日本教育会館
- ②高瀬奈津子、唐代後半期の軍費の拡大と延資庫の成立、唐代史研究会夏期シンポジウム、2009 年 8 月 25 日、箱根強羅静雲荘
- ③高瀬奈津子、唐代宦官墓志的修辭特点、世界漢語修辭学会第二屆年會暨修辭学国際學術研討会、2010 年 7 月 29 日、香港教育大学
- ④高瀬奈津子、文人としての楊炎、2011 年国

際修辭传播学前沿论坛—语言文化教育与跨文化交流—、2011 年 10 月 29 日、札幌大学

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高瀬 奈津子 (TAKASE NATSUKO)

札幌大学・文化学部・准教授

研究者番号：00382458